

令和7年度（2025年度）第1回東海市こども・子育て会議 議事録

- 1 日時 令和7年（2025年）9月2日（火）午後2時～午後3時
- 2 場所 東海市役所201会議室
- 3 出席委員（15名）
会長 山崎康一郎、職務代理者 坂田弘毅、塚田洋介、高本響子、丹羽里奈、吉村清香、川北夏代、近藤高史、宇野まゆ子、加藤真治、高木由起子、石田弘枝、竹之内由佳里、唐澤貴斗、加藤暢子
- 4 欠席委員（1名）
八澤佳子
- 5 職務のために出席した職員
市民福祉部長 植松幹景、幼児保育課長 小島英泰、同統括主任 宇賀神雄也、健康推進課主任指導保健師 大串文子、学校教育課指導主事 加藤雅尚、社会教育課統括主任 浅井貴史、社会福祉課統括主任 井上綾、こども課長 永井直子、同主幹〔子育て支援センター長兼結婚応援センター長〕 能登谷宏美、同主幹 佐田知子、同統括主任 中本雅江、同統括主任 堤仁勇、同主任 西村美紀
- 6 公開、非公開の別
公開
- 7 傍聴者数
0人
- 8 会議日程
 - (1) 開会
 - (2) 部長あいさつ
 - (3) 委員紹介
 - (4) 会長及び職務代理者の選出
 - (5) 報告事項
 - ア 成果指標（第2期東海市子ども・子育て支援事業計画）について
 - イ 量の見込みと確保方策に関する評価・分析（第2期東海市子ども・子育て支援事業計画）について

(6) その他

(7) 閉会

9 会議内容

(1) 開会

(2) 部長あいさつ

皆様、こんにちは。市民福祉部長の植松でございます。本日はお忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から本市行政へのご支援を賜り、重ねてお礼申し上げます。東海市は「子育てするなら東海市」ということで、子育て支援に力を入れて参りました。また、都市宣言でも、「子育てと結婚を応援するまち 東海市」をスローガンに掲げております。今日の会議の中身にも関係してまいります。今年度からスタートいたしました「東海市こども計画」の基本理念が、「こども・若者とその家庭をしあわせに」ということで、こども家庭庁が提唱している「こどもまんなか社会」の実現に向けて様々な施策を展開しているところでございます。

委員の皆様には、この会議で施策の推進についての説明をさせていただきます。それに対するご意見ならびに評価をいただき、そのご意見を参考に、改善充実を図っていければと考えておりますので、是非貴重なご意見をいただければと思います。本市の子育て支援の環境整備の為、皆様のご協力をいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(3) 委員紹介

委員は名簿を参照。職員は自己紹介

(4) 会長及び職務代理者の選出

互選の方法は指名推選とし、会長には山崎康一郎委員を推選する旨の発言が加藤暢子委員よりあり、満場一致で山崎康一郎委員に決定した。また、職務代理者は、山崎会長からの指名で坂田弘毅委員に決定した。

(山崎会長あいさつ)

会長にご指名いただきました、山崎と申します。どうぞよろしく願いいたします。本日は、お忙しい中会議にご参加いただき、誠にありがとうございます。

この会議は、子どもや若者に関する様々な取り組みをより効果的に進めていく

為に設けられ、皆様から広くご意見を伺う場として設置されております。

具体的には、こども計画に関すること、こども若者施策に関することが内容となっております。

現在、私たちを取り巻く環境につきましては、少子高齢化、核家族化、地域コミュニティの希薄化といった様々な課題がありまして、そうした複雑化・多様化する課題に取り組まなければならない状況になっております。

東海市におきましても、待機児童問題、家庭への支援の提供、将来への不安や生活困難を抱えるこどもや若者への支援といくつか課題がございます。こうした課題に適切に対応し、全てのこどもと若者が輝ける社会を築いていくために、皆様は豊富な経験をお持ちかと思っておりますので、そうした立場から、多様なご意見をいただければと思っております。

「こども・若者とその家庭をしあわせに」ということが「こども計画」の基本理念となっておりますが、理念を実現するために、共に考えてまいりたいと思っております。ここでの議論や提案が、こども・若者、子育て中の皆さんが将来に対して明るい展望を持てるように、また東海市の施策をより良いものにしていくきっかけになることを期待しております。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

(坂田職務代理者あいさつ)

ただいま職務代理者に指名をいただきました東海市保育事業協会会長の坂田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。一昨年度から携わらせていただき、「こども計画」の策定にも関わらせていただきました。それぞれ多方面で活躍されている皆さんがこちらにお集まりいただいていると思っておりますので、それぞれの立場で思われていることをそのまま伝えていただきまして、東海市のこども子育て施策に繋げていけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(5) 報告事項

ア 成果指標（第2期東海市子ども・子育て支援事業計画）について

事務局より資料に基づき説明

(会長)

ただいまの説明について、何かご質問・ご意見等があればお願いいたします。

これからそういった年齢になられる唐澤委員はどうでしょうか。

(唐澤委員)

出会いの機会を作る施策があるとよいと思います。また、結婚した後の施策はしっかり考えられていると思いますが、結婚する際にも何か施策があったら魅力的だな、と思いました。

(会長)

ありがとうございます。急に振りまいたけれど、若い方の意見は非常に貴重だと思います。他の方はいかがでしょう。

(坂田委員)

私は幼稚園で幼児教育に携わる者として、基本目標1の4項目全てが対基準値、対前年度ともに悪化という件に関しては、私自身も保護者に対して、何か出来ることがなかったのかなと責任を感じることもありますけれども、評価シート1ページ目のところで、先ほど情報発信の手法を見直したことで一時的に市民への情報発信が不十分になったということですが、どのように見直しをして、どのようなことが不足していたと認識されているかを伺えますでしょうか。

(事務局)

情報発信の部分ですと一番大きい部分は、未就学の子がいる世帯全てに、子育て情報誌といったものを年6回発行しておりました。そちらに、イベントの情報や様々な市の施策が掲載されているので、そういったものを見て申し込んだり、市が実施していることを知るきっかけになっていたかなと思います。先ほどの説明の中でも少しありましたが、「子育てアプリ」を導入したり、市のホームページ等も少し変わってきたということもありまして、デジタルを活用しながら、次に進めたいという思いから、子育て情報誌の発行を一旦止めたことで、未就学の世帯に情報が行き届かなくなったのかなと。アプリで配信はしているものの、アプリのインストールをしていなければ情報が得られないこともあり、アプリを始めて間もないので、全員が未だインストールをするに至っていないように思います。情報誌が一旦なくなったというのが、一つ大きな要因かと思っています。

(坂田委員)

例えば、アプリに関しては私どもの園の方に対して、保護者に周知してほしいという依頼をいただければ、それを皆さんに周知してもう少し利用が増えること

もあるかもしれないと思っています。それ以外の部分で、幼児教育の充実、質の高い保育ということで、保育事業協会の中では幼稚園、保育園全て一堂に会しての研修も行ったりとすとか、特に東海市に関しては、幼児教育無償化で、他の市と比べても子育て支援という部分での保護者の金銭的な負担を軽減するための取り組みをたくさんやられていると思うので、そういったことを皆さんに知っていただくと、東海市は今の状況でも数値を上げることができるのではないかと思います。実施している取り組みのアピールがもっと出来るといいのかなと思います。

(会長)

ありがとうございます。私の方からも、今の質問に加えてですが、アプリが非常にたくさんある中で、埋もれてしまうともったいないなと感じています。多くの子育て中の方が、情報を取捨選択しなければいけないというところで、このアプリは非常に期待が持てるなと思っているんですけど、何か目立たせるというか、ダウンロードに繋がるようなことはありますか。

(事務局)

赤ちゃん訪問や母子健康手帳を発行する際にご案内していて、その場でダウンロードされる方もいますし、生まれた方には、出来るだけ多く届けられるようにしています。

(会長)

基本的には、お子さんがいらっしゃる方には伝わるような取り組みをされているんですね。ありがとうございました。

イ 量と見込みと確保方策に関する評価・分析（第2期子ども・子育て支援事業計画）について

事務局より資料に基づき説明

(会長)

ただいまの説明について、何かご質問・ご意見等があればお願いいたします。無いようですので、続いての説明に移りまして、あらためて最後にご意見等を伺いたいと思います。

(6) その他

東海市こども計画策定について

事務局より資料に基づき説明

(会長)

では、全体を通しまして、何かご質問・ご意見がありましたらお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

(塚田委員)

東海市は、産婦人科がないじゃないですか。そこには理由があるのですか。

(事務局)

以前は市内数か所に開業医がいらっしゃいましたが、先生方の高齢化等に伴い、閉院されて、今は公立西知多総合病院のみが分娩をしている状況です。

(塚田委員)

今後出来る計画はあるのですかね。不安はないですか。

(事務局)

東海市の方は近隣に通われている方が多く、名古屋市や南の方に通っている方も、遠いから陣痛が来ても間に合わないといったことはない状況です。医療機関との連携もとっていて、サポートが必要な場合は、医療機関と連携し、妊娠中からサポートしています。

(塚田委員)

足りないとは聞かないが、予約が大変と聞く。

(事務局)

見つからない方もなかにはいらっしゃるもので、そういう場合は一緒にサポートしています。

(塚田委員)

今の親は、昔に比べて仕事をされている人が多いため、余裕がないからか意識の違いもあり、あまり地域に対して関心がなく、自分の子さえよければいい、周りの子のことをあまり気にしていない感じもあり、だから怒れないような環境も出来上がった気がします。そういう親達に対して支援をしたり、今の子ども達の実態がこうなんだと、お母さん達にも協力してもらえらるようなアプローチが必要

ではないかと感じる部分があります。そういった点で東海市の取り組みや視点は何かお持ちでしょうか。

周りの親の目を気にしてしまい、他人の子が間違っていることをやっても、あまり強く言えなくて、逆に自分の子どもに対してあまりその子と関わらないようにと指導をしてしまう親が今の実態を作っているのではないかと思うのですが。
(事務局)

確かに支援センターで見ている、他のお子さんが何をしても、やめさせる、止めるということもなく、保護者同士の関係性が希薄になっているのではと感じています。そこに何か手立てをとるところまでには至っていませんが、そういう現状は感じています。

(塚田委員)

何が正解か分からないが、何かアプローチできる方にもっていかないと、いろんな活動をしてなかなか協力してもらえないと思います。協力してくれる親がいないと進まないと思うので、そういったことも検討をお願いします。

(会長)

私の感覚的なところでもありますけれど、コミュニケーションの仕方が違うというか、リアルな部分で希薄になっている部分があると思います。ネットの中では濃密なコミュニケーションをしているのだらうと思いますが、コミュニケーションの仕方や、人との繋がり方が変わってくる中で、どのようにアプローチしていくか。これからそのような意味でも、アプリは双方向性が確保できると、繋がり方のヒントが得られるかなと思ったりします。

また、異年齢の交流事業もとても大事だと思います。子どもたちはネットやゲームのなかでは実際には異年齢の交流をしているんだと思いますが、相手の年齢が分からないということでいろんな被害にも遭ったりするんですね。だからリアルな体験がとても大事なのかなということで、そこに繋がるような発信の仕方が見つかるかよいかと感じました。

(加藤暢子委員)

保育園、幼稚園は、初めてお子さんが社会に定期的に通う場であって、保護者の方も自分の家族を送り出す初めての場所で、情報を得るのはきっと得意なんですけど、それをどう活用していくか、どう繋がっていくかというのは、案外仕事の

部分では上手な方がたくさんいらっしゃるんですが、家族を巻き込んでのそういう経験はゼロからのスタートになるので、就学までの間に毎日顔を合わせる職員たちと保護者の方との関係を作って、ここと繋がると自分の家族が幸せになれるよねじゃないですけど、お友達のご家族とそういう関係はいいよねみたいな。保護者の方も多分ちょっと後押しをしていただいたり、それでいいんじゃないと言われると安心するということも多く、特にコロナで誰とも接触しないで踏ん張ってきた保護者の方がようやく社会に出たということもあり、まだまだどう関係を作っていくか迷われているご家族が多いかなと思うので、就学までに、そういうスキルのベースが出来ると良いと思っています。

(会長)

本当にあと一押しみたいなところで、一旦繋がると上手くいくのかなと思います。

若者のことも色々入っているかと思いますが、普段から若者を見ていらっしゃる高木委員からは何かないでしょうか。

(高木委員)

最後に、計画の体系にもあった「良好な成育環境を整備します」に関しまして、高校の生徒たちは18歳という切れ目で対象にならないこともあるのですが、色々な家庭環境や育成環境に問題を抱える子どももいますので、居場所というところをこの年代の子達にもと考え始めていただいているところは、とても有難いと思います。東海市の方で、公民館の自習スペースを開放してもらおうという事業を始めていただいたり、そういったところで、生徒たちが色々なところで繋がりを持っていけるのは、先ほどのお話にもありましたとおり、リアルの繋がりの希薄さ、それによるコミュニケーション能力を苦手とする子もいますので、有難いと思います。

高校の教員という立場からではないのですが、すごく丁寧に目標に対して施策の評価をされていて、とても驚きました。その中で、まずファミリーサポートのことについて、実際に利用させてもらったことがあります。私が使っていた時と比べて、新たな形があるのかな、と思いました。親の時間的な余裕のなさや、子の遊び方の変化、その辺りを解決できるような、子ども会の新たな形とかあるのかもしれないなど。私自身、他市で子ども会の会長をやっていた時期があり、私

自身はとても良い活動だと思ったのですが、他の方々の時間的余裕がなく、私の代で子ども会を畳んだという経験があります。子ども会に関しては、補助金の拡充や、対象要件の緩和というのも一つですけれど、他にも何かあるのかなと思います。

(事務局)

子ども会の件に関しては、お金の部分以外で何か新たな形というところで今、子ども会の方もとても頑張っているのですが、やはり役員になるのが負担だという声は非常にあります。地域・地元が一番小さい単位での子ども会活動の上位組織の役員は求めないというような形を、考えてくださっています。もちろん自分達の活動の部分は順番に役員が回ってくるかと思いますが、上位組織に役員を出すことは、今回からなくすという形でやっています。異年齢交流ができる貴重な場だと思うので、できる限り繋げていけたらと思っています。

(事務局)

ファミリーサポートは、コロナを機に親御さん達の働き方がだいぶ変わったかなと感じていまして、在宅だとか、家庭の中で何とか子どもを見ていくというようなことを社会全体でやっていける体制になっていきているので、ファミリーサポートの依頼が減っているのかなと思っています。ファミリーサポートも従来通りのやり方からまた少し考えていくところもあるのかなと思っています。

(会長)

ファミリーサポートは、親御さんの働き方が変わったのではないかという意見がありました。大人になってからの居場所は、職場にかなりあった部分が、だいぶ少なくなっている中で、地域の中で仕事を介さない繋がりみたいなことが必要なのかなと思います。そういう意味では、子ども会活動であったり、高校までの間にいかに友達と繋がるみたいなところはとても大事なことだと思います。いかにネットが面白くなったとしても、リアルに会うというところは求める部分があるのではと思います。そういったところを期待したいなと思っています。

他よろしいでしょうか。

無いようですので、本日の議題は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

(7) 閉会